

パゴダの国で

ミャンマーは全人口の約九〇パーセントが仏教徒で、いたるところにパゴダ（仏塔）が建てられている。仏教はミャンマーの人々の生活と深く結びついていて、日常の行動や考え方にも影響を与えている。



ダウンタウンの中心部にあるスレーパゴダここを中心に道路が放射状に伸びている

校舎全景



●ミャンマー●

# ヤンゴン 日本人学校

公用語はミャンマー

語だが、長年イギリスの植民地であったため英語を解する人も多い。

主要産業は農業で、

就業人口の六〇パーセント以上が農業に従事している。日本からの

おもな輸入品は、輸送

機械（自動車）・一般

機械・鉄鋼などである。

気候は夏季、雨季、

乾季に分けることがで

きる。雨季は湿度が増大し、七月と八月は

九〇パーセント以上になることがある。乾

季は一年間でいちばん涼しく、過ごしやす

い季節である。

## 現地の教育環境

今年の二月十日時点の日本人会会員数は二五七人。現地校に通っている子どもはいないが、幼稚部から高等部まであるアメリカ系のインターナショナル・スクール・オブ・ヤンゴンに通っている日本人は二十人程度いる。

当地にはほかに、イギリス系のディプロマティックスクール、インドネシアンスクール、ロシアンスクール、インディアンスクール、フレンチスクール等の国際学校がある。なお補習授業校はない。

ヤンゴンの郊外にある「日本人墓地」で戦没者の冥福を祈るとともに清掃活動



9月に行われる弁論の会では少し長めのスピーチに挑戦



## 本校の特色

本校は一九六四年に世界で二番目の日本人学校として開校し、今年で創立四十七周年を迎えた。小規模校のため小・中学部ともに教科担任制をとり、教職員全員で子ども力を伸ばそうと一人ひとりにいろいろな立場からかわるようになっている。年少から年長まである幼稚部も小・中学部と同じ施設内にあり、日本から招聘した講師と現地採用職員によって指導が行われている。小・中学部といっしょにステージ発表をするなど、幼・小・中の交流も行われている。本校に学ぶ子どもたちは、生活言語がミャンマー語であったり、日本での生活経験が少なかったりすることも珍しくない。多様な生活背景を持つ子どもたちに、日本人

宿泊体験学習 小学部5・6年と中学部 ペットボトルのミネラルウォーターができるまでを見学



現地理解教育 ミャンマーの伝統芸能を鑑賞



Yangon Japanese School

URL <http://yjs.fc2web.com>

児童生徒数 幼=14人 小=32人 中=11人

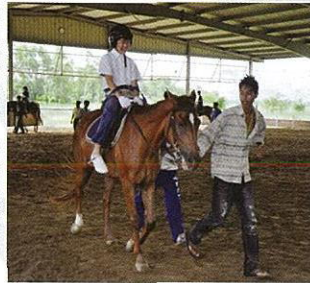
小学部5・6年と中学部 フレンチスクールとの交流会



学習発表会 小学部6年 JICAの活動について調べたことを、自分の生活をふり振り返りながら発表



宿泊体験学習「乗馬体験」のあと馬の世話にも挑戦



## 子どもたちから

しほふのクラウドは、  
とってもきもちがいいよ。  
ぜんぜん生であそぶよ。(小3)

この学校の好きなところはみんながやさしい  
あそびがたくさんです。この学校の良いところは、  
みんなが仲がいいことです。(小6)

イベントが多いのでたくさんのが  
体験できます。(中二)

—チルドレンズフェスティバル—



小学部5・6年と中学部  
自分たちで選んだノリのい  
い音楽に合わせてオリジナ  
ルのダンスを披露



小学部1〜4年  
八木節と花笠音頭をミックスして  
ロック調にアレンジした曲に挑戦

としての資質を養い、日本語力を高めることとは本校の教育課題の一つである。そのため、言語環境を保证するための一環として「朝読書」や「二週間スピーチ」に取り組んでいる。また九月に行う「弁論の会」は、ミャンマーで思ったことや自分の夢などをテーマに全校生がスピーチする伝統の行事だ。

一方で、「大切にしよう 小さな出会い」を合い言葉に文化・スポーツ交流を中心にした国際理解教育を推進している。その代表的なものが、本校最大の行事「チルドレンズフェスティバル」である。近隣の現地校などを招待して、各国の子どもたちと一緒にステージパフォーマンスを披露してもらおう。一方、本校の児童生徒が日本の伝統文化を紹介する。また、<sup>なまこ</sup>堅琴やミャンマーダンスに代表される現地の伝統芸能に触れ、現地

の文化について理解を深める機会も設けている。

授業では、全学年が週一時間「英会話」を行うほか、二週間に一時間「言語」の授業を行い、現地のことばに慣れ親しみ交流の機会に生かせるようにしている。なおこの授業は、ミャンマー語中心の家庭生活を過ごす児童生徒に対しては、日本語を補習支援するための時間としている。

本校では、進路指導・キャリア教育、現地理解学習の一環として社会体験を大切にしている。現地の日系企業や団体の事業所や工場を見学するなど、体験学習を通して現地の様子や日本とのかかわり、自分の進路などについて考える。低学年の生活科ではマーケットで買い物を行うなどしている。(二〇一一年四月現在)